

科学技術関係人材専門調査会の審議における主な論点について (要旨)

資料 2-1

科学技術関係人材専門調査会長
井村 裕夫

1. 目標

世界水準の研究成果を創出し、活用
するのに必要な科学者・技術者、専門
家を育成・確保する

2. 問題点

独創性・積極性や柔軟性が弱い
科学技術と社会の「橋渡し」人材が
不十分
重点4分野等で人材不足との声

3. 背景

高度工業化社会に適した均質な人材の育成
知識社会、イノベーション、グローバル化
に対応できず。
これまでにない融合分野や新興分野が
今後のカギ
従来の分野ごとのタテ割では育成できず
世界水準の優れた能力の育成に向けた
取組が立ち遅れ
米国、中国等は強力に推進

4. 基本認識

世界最高水準の科学技術創造立国の実
現には、これまでの殻を破る人材育成の
方策が不可欠

ポイント

大学、産業界、初等中等教育、研究
機関等が「人づくり」に向けて連携協力
する体制の構築が急務
人材の育成には長期的なビジョンが
必要

5. 解決方策

- (1)初等中等教育段階で多様性・創造性
を伸ばす取組を支援
- (2)大学入試の改善等、大学と高等学校との
接続を改善
- (3)学部・大学院教育の改革の推進、
学生の体験や挑戦の機会を拡充
- (4)学部・学科等の新設・改組による
人材需要への対応
- (5)大学院で学ぶ価値と魅力を高める
方策を検討・具体化
- (6)広い視野や学際的分野のための
人材育成プログラムの奨励・支援
- (7)技術者の生涯にわたる能力開発を支援
- (8)女性研究者、高齢研究者、
優れた外国人の能力を活用

6. 今後の検討課題

- (1)若手研究者の自立性向上とキャリアパス
の整備
- (2)多様な人材を育成・確保する方策
- (3)博士課程に優秀な人材が進むことへの支援策
- (4)産業界の積極的協力と人材育成への参画
- (5)科学技術関係人材の裾野の拡大
と理解増進の施策 など

7. 今後の予定：さらに審議を深め、来年夏にとりまとめを行う予定